



LETTER FROM COPENHAGEN

コペンハーゲン通信 2

PART IV



デンマーク王国 DATA

人口560万人(≒北海道)、面積4.3万平方キロ(≒九州)、欧州最古の王室を有する立憲君主国。「世界一幸福度の高い国」「環境・デザイン・福祉先進国」として知られ、アンデルセン童話、食器・家具・知育玩具などのブランドは日本でも有名。

◀市庁舎前にある自転車の通行カウンター。上が、本日の通行台数。下が年間の通行台数。

当会事務局職員が、2007年1月より在デンマーク日本大使館に出向しています。国際競争力や人々の幸福度で高い評価を受けるデンマークからの現地報告を不定期にお届けします。

コペンハーゲンの自転車事情

コペンハーゲンといえば自転車利用が多いことで有名ですが、この国の自転車事情について少し触れてみたいと思います。

デンマークは山らしい山がないとても平たい国で、全国の最高標高地点でも173メートルしかありません。デンマークではその地の利を活かし、自転車道のインフラが着々と構築されてきました。このような環境整備が奏功し、今では自転車で通勤する人々の姿はデンマーク、特にコペンハーゲンの日常的な光景になっています。

コペンハーゲンで自転車通勤をする理由を現地の人に聞いてみると、いくつかの要因があることが分かりました。まず教科書通りの答えは、自身の健康維持のため、そして環境保護のため、という理由です。しかし、これらの美しい理由の裏には、隠れた本音の理由が三つほどあるようです。

まず、自転車通勤にランニングコストがかからないという点は、非常に重要なインセンティブになっています。デンマークでは一般的に勤務先から交通費が支給されません。電車やバスに乗れば、すべて自分の持ち出しのお金になってしまうのです。ですからお金が掛からない自転車を選擇する人が多くなるのは自然の流れといえます。

また多くの人は、自転車による移動が最も早く、また確実に到着できる手段だと考えています。デンマークの電車は、何の前触れもなく、大きく遅延したり、本数が半減することが多く、電車通勤者たちを常に悩ませています。マイカーによる通勤では、常に市内のどこかで行われている工事のため、渋滞が発生することも多い上、市街地には駐車スペースも十分にありません。自転車通勤者は、こういった不確実性に悩まされずに済む、と口をそろえて言います。

そして最後に、これは論理的というよりは本能的理由でしょうか。「自転車に乗っていると楽しいから」という理

由。このことが国民の高い幸福度に関係していると想像するとこちらも楽しくなりますが、いかがでしょうか。

一方で、デンマーク政界の方々と接していてびっくりさせられるのが、大臣や国会議員であっても、当然のように自転車で通勤しているということです。国会議事堂であるクリスチャンボー宮殿の目の前には自転車置き場があり、ぎっしり埋まっています。また、たとえ大臣であっても、会談場所に秘書と仲良く並んで一緒に自転車でやってくることがあります。一国の閣僚は黒塗りの高級車で現れるもの、と思い込んでいる人にとっては拍子抜けかもしれません。しかし、政治家がこうして率先して自転車に乗らなければ、インフラ整備もここまで進んでいなかったかもしれません。

昨年4月に、コペンハーゲン市と同市西方に位置するアルバーツルド市の間、17.5kmを結ぶ自転車専用的高速道路が初めて完成しました。自転車通勤者の移動距離は20km圏まで大幅に拡大し、この1年間で該当地域の自転車通勤者は約10%増えました。この結果を受けて、都市部周辺を中心に、今後28の自転車専用高速道路がデンマーク国内に建設される予定です。



木下 潤一

在デンマーク日本大使館一等書記官
(経済同友会事務局より出向中)



▲大使館裏にかかっている自転車と歩行者だけのための橋